

# 動かせ、平塚。

## 公約すべてに着手しました

昨年4月の市長選では「3期目の約束」として、「新たに取り組む主な施策」、「施策の実現に向けて」、「夢の実現や課題の解決に向けて道筋をつける取り組み」を計83項目掲げました。すでに、この取り組みすべてに着手しています。今回は、「新たに取り組む主な施策」を中心に状況を紹介します。

### ◇小児医療費助成の所得制限撤廃

湘南地域で初めて、この1月から撤廃。親の所得にかかわらず、中学生まで医療費はかからなくなりました。

### ◇切れ目のない子育て支援をさらに充実

昨年10月から産前・産後ヘルパー派遣事業を開始しました。家事や育児が困難な家庭をサポートします。

### ◇この4月には待機児童ゼロへ

昨年は4月の小規模保育事業施設2か所の開設と、10月の民間保育園新園舎の完成で、定員が88人増えました。この4月には、民間保育園の新園整備や増築、小規模保育事業施設開設により、定員がさらに105人増える見込みです。

### ◇放課後自主学習指導教室を拡充

児童の学習意欲の向上及び家庭学習の習慣化をめざし、平成30年度から開催。今年度は松延小学校に大野小学校を加えて2校で、4～6年生の学習をサポートしています。

### ◇中学校普通教室にエアコンを整備

6月末までに整備しました。小学校は30年度までに整備済みです。



### ◇中学校完全給食の実現に向けて

「共同調理場方式」で整備候補地を田村九丁目の市有地に決定し、既存の共同調理場2場の統合・移転と合わせ、整備します。令和4年度の工事着手をめざします。

### ◇「これよん」を使いやすく改修

「こども発達支援室「これよん」」は、老朽化した施設を改修し、この4月にリニューアルオープンします。相談室の増設、駐車場の確保など、より使いやすくなります。

### ◇障がい者雇用現場である「夢のタネ」を学校にも広げます

市役所での取り組みを、江陽中学校や真土小学校で試行しました。

### ◇スマイル100歳時代へ。健康長寿事業を強化

RIZAPによる40代からの未病改善教室を9月から始めました。

一方、要介護状態に陥らないための対策として「フレイルチェック測定会」などを実施。また、認知症の中核症状を疑似体験する「VR（バーチャルリアリティ）認知症体験会」も始めました。

### ◇元気応援ポイント事業を拡充

高齢者の活動の場として、子育て支援施設など18施設を追加し、68か所に拡充。さらに100か所をめざします。

### ◇住民主体の地域内交通手段を支援

昨年7月、新たな支援制度を創設。須賀新田地区では「須賀新田シニアクラブ」が立ち上がり、買い物支援等の移送が始まっています。

### ◇可燃ごみ戸別収集をモデル地区に導入。ごみを出しやすくします

夕陽ヶ丘、立野町、大神のそれぞれ一部で10月から始めました。市内全域での実施に向け、データを蓄積し、アンケートなども実施して課題を整理します。（裏面に続きます）



## ◆ツインシティ大神地区で大型物流施設が開業

昨年11月に初めて大型物流施設が開業したほか、様々な施設の整備が進んでいます。相模小中学校は、令和4年4月に開校する予定です。

## ◆総合公園野外トイレを改修

2か所の改修が完了しました。残る2か所の改修と、動物園北側への親子トイレ新設は、この3月に完了する予定です。

## ◆新港の波力発電所は2月完成予定

新産業創出促進事業として国の交付金などを活用し、東京大学などと進めてきました。地球温暖化対策に技術力を結集したシンボルとして、観光やシティプロモーションへの活用が期待されます。

また、新港背後地の多目的広場やトイレなどが3月完成予定です。海

# サイレントマジョリティ

日本語に訳すと「静かな多数派」という意味です。声高に意見を表明しない「静かな多数派」である市民の皆さんの声に耳を傾け、市政に反映させることが大切だと、私は考えています。そこで、市長就任後、市民の皆さんとの対話集会「ほっとミーティング」を55回、開催してきました。

昨年10月には、新しい試みとして、無作為抽出の25～29歳の方を対象としました。その理由は、4月の統一地方選挙での投票率が低かった年代である。若いサイレントマジョリティの声を引き出したい。そして将来、社会を支える若者が、平塚市を選び、住み続けてもらうには、彼らが求めるまちの姿を把握しておくことが必要だと考えたからです。

「世間のイメージより平塚は治安が良い」など、特に市外から移り住んだ若者が見る平塚像は新鮮でした。取り組みの成果が認められつつあることを直接知り、今後の励みにもなりました。終了後も前向きな感想が届き、うれしく思いました。

今後も、参加対象や方法などをさらに工夫して、市民対話を継続していきます。

に触れあい楽しむ交流機能の強化を図ります。

## ◆シェアサイクルを導入

県や近隣市町と連携して8月に導入しました。市内では7か所のサイクルポート・77台の自転車(増加継続中)で、周遊観光を促進します。

## ◆市役所業務の多言語対応を拡充

広報ひらつかは日本語を含め10言語での配信を8月から始めました。

この2月にはテレビ通訳サービスを使い、日本語を除く11言語以上での二元的相談窓口を設置予定です。

# 防災・減災体制のさらなる強化を

昨年は9月の台風15号に続き、10月には大型で非常に強い台風19号が東日本を中心に記録的な豪雨をもたらす、各地で甚大な被害が発生しました。

## ◆窓口業務のサービス向上

市民課・保険年金課の窓口業務の一部を9月から民間委託し、案内係を導入。11月からは窓口受付番号システムに増設したモニターテレビに有料広告を表示することで年間600万円の歳入を確保しました。

また、駅前市民窓口センターを5月に駅ビルフロア内に移設しました。

## ◆平塚文化芸術ホールの建設

基本設計・実施設計を進め、1月中に着工する見込みです。令和4年春オープンの予定です。

被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

市職員として私の最後の職場は防災課でした。市長就任直前には東日本大震災が発生しました。こうしたことから、「防災」には特に強い思い入れがあります。

平塚市は相模川と金目川水系の二つの大きな川に挟まれています。風水害の歴史を踏まえ、市では雨水管の増強などの浸水対策を進めるとともに、川を管理する国や県に、堤防整備や河床に堆積した土砂の除去などを強く要望しています。

今回、台風19号がまだ紀伊半島の南約300kmの海上をゆっくりと北北西へ進んでいた10月11日午後7時に、平塚市では金目川水系地域の避

## ◆東京オリパラ

平塚市はリトアニアのホストタウンです。昨年は自転車チーム、パラアスリート、教育訪問団などが平塚市を訪れました。平塚市からは11月に相州平塚七夕太鼓保存会がリトアニアを訪問し、演奏を披露しました。

今年夏の東京オリパラでは、リトアニア選手団が平塚市を中心に事前キャンプをします。選手たちが本大会で最大限の力を発揮できるように支えるとともに、終了後には幅広い分野で交流の輪を育みます。

難所8か所を早期に開設。12日朝には56か所のすべての避難所を開設し、12日20時には過去最多の5434人が避難しました。

幸いこの台風による市内での人的被害はありませんでしたが、四之宮・田村などで床上・床下浸水などの被害が発生しました。一方、河川敷グラウンドなど公共施設の災害復旧には約2億8千万円かかる見込みです。

今回の教訓を生かし、避難所には濡れた服を着替えるマルチルーム、停電時に使えるランタン、高齢者などのため体育館に敷くマット、携帯電話充電器などを追加配備します。

また、四之宮排水区の浸水被害における発生メカニズムを解析し、それを踏まえた対策を検討するなど、一連の動きを検証し、防災・減災体制のさらなる強化を図ります。